# 平成２８年度　第２回鳥取市行財政改革推進市民委員会・会議概要

日　時：平成 28 年 10 月 31 日（月）　午後 3 時から午後 5 時
会　場：鳥取市役所　本庁舎 4 階　第 4 会議室
出席者：≪委員≫
山下 恭史　委員長、山下 博樹　副委員長、内田 一真　委員、清水 はるみ　委員、
玉木 真人　委員、福山 裕正　委員、吉永 昇平　委員
≪鳥取市≫
河上行政経営係長、岩田主任

---

## 会議概要（事務局による要約）

**1. 開会**

**河上係長 ：**

定刻になりましたのでこれより平成２８年度第２回行財政改革推進市民委員会を開催します。本委員会の設置要綱第５条第２項に、「委員会は委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない」とされていますが、本日は７名の委員にご出席いただいておりますので、本日の会議が成立していることを報告いたします。では開会にあたりまして、山下委員長よりご挨拶いただきたいと思います。

**2. あいさつ**

**山下恭史委員長 ：**

月末のお忙しい時にお集まりいただきましてありがとうございます。まず、約１０日前に起こりました地震につきまして、震度６弱ということで関係者の皆さまにお見舞いを申し上げます。新聞報道等によると、一部損壊を含めて約 7,000 の家屋に被害が出ており、未だに 300 人前後の方が避難生活を余儀なくされているという状況なので、本当に早期の復旧を望むところであります。一番大きな影響があったのは観光のところ。ツアーがキャンセルになったり旅館の宿泊がキャンセルになったりといった風評被害が大きく出ております。県も元気さをアピールしようという風になってきておりますけれども、一般の企業活動あるいは市民、特に鳥取市民の活動が萎縮されることのないように祈っております。

本題の方に入りますが、今回からいよいよ実務的な内容になります。資料の方の送付が間に合わなかったものもありますが、しっかり読み込んでもらいながら会を進めていきたいと思っております。また今日は事前の質問も委員さんから出していただき、その回答も返っておりますし、事前にお配りした４つの事業も委員の皆さんに見ていただいておりますので、これらを中心に進めていけたらと思います。さらにそれ以外も広く通してご質問等あればまとめていきますので、ぜひ委員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

**河上係長 ：**

ありがとうございました。それでは以後の進行は委員長よりお願いいたします。

**3. 議事**

**山下恭史委員長 ：**

次第のとおりに進めていきたいと思います。まず議事の（1）。事前質問への回答及び中間評価の結果について事務局から説明をお願いします。

**岩田主任 ：**

はい。それでは議事（1）について説明いたします。

～以下、資料説明～

事務局からの説明は以上になります。

**山下恭史委員長 ：**

ではまずは資料３～６あたりの、第６次行財政改革大綱に基づく実施計画の進捗状況についてというところで、ご質問等があればお願いしたいと思います。

多少読み込みに時間がかかるかと思いますので、その間に私の方から質問させていただきます。計画を下回るというものが全体の２割ぐらいあって、その中で行財政改革課のものがあるようですが、これは他の課との関係があって少しできてないところもあるのか、最終的にやめてしまおうというのがあってそういった検討も含めて遅れているのか、そのあたりはいかがですか。

**岩田主任 ：**

この進捗が遅れている計画の一覧で、今ご指摘いただきました、お恥ずかしい限りですが我々の仕事としては全部で４つ上がっております。ID11 と ID49、ID57、それから 67 です。このうち ID11 は、外部委託の推進方針というものを考えないといけないというもので、これは、我々が行っている業務の中で民間の方で行っていただけるものは可能な限り民間の方にお願いしましょうという考え方があります。現在、新庁舎での実現を目標に総合窓口というものを検討しておりまして、その窓口業務の中に、外部に委託できるものがないだろうかという検討を併せて進めているところです。そのような状況を踏まえてこの方針を見直しましょうというのがこの事業なんですが、実はこの見直しをするにあたってそもそもどういった窓口業務がどういった手順で行われているかといったところを、コンサルに入っていただいて調査をしているところです。その調査が年度末ごろでまとまりますので、この結果をもって方針の見直しをしていくということにスケジュールを変更したものです。

また、これと同じ考えのものが ID67 で、これは窓口業務等の業務手順を洗い出して手順書をきちんと整理しましょうというものです。本来この ID67 で手順を整理したうえで、ID11 番で外部に委託できるものがないか検討していきましょうという流れになる予定だったものですが、これがまとめてコンサルの調査結果を待ってということになります。

**河上係長 ：**

ID49 の各課の補助金に対するサンセットルール適用については、基本的には補助金の見直し方針に基づき、全庁的に指導は行っているところですが、担当課に十分に理解していただけなかったというのがありました。したがって今後は、この補助金は該当しますから直してくださいといったことが一目で分かるよう台帳を整備し、それに基づいて指導を強化しようと思っております。

ID57 の第 2 次外郭団体の経営改善及び統廃合に関する方針というものについてですが、この方針が策定から 10 年ほど経過しており、それまでの期間に取り組んできた内容を改めて整理したり、今後の方向性について担当課に聞き取り調査をしたりしておりますので、その結果を踏まえて方針策定の検討を進めてまいりたいと考えております。ただ市の職員では判断が難しいというものがあれば、必要に応じてコンサルなどにご協力いただくことも必要かと考えています。また同じ ID の土地開発公社の経営改善化計画の見直しについては、平成 28 年度以降の計画を策定中ではありますが、各個別の計画案件について具体的な時期を固めることができておらず計画の完成に至っていない状況です。

**山下恭史委員長 ：**

そのほか見ていただいて、何か質問等があればお受けします。

**清水委員 ：**

今説明がありましたが、外郭団体の経営健全だけでなく、統廃合も考えておられるということですけれども、その統廃合を実施しようという計画は具体的にはあるのですか。

**河上係長 ：**

今のところこれというのは出ておりません。

**清水委員 ：**

そもそも外郭団体というはどれくらいあるものでしょうか。

**河上係長 ：**

現在鳥取市の外郭団体として位置付けているものが２２団体ございます。

**清水委員 ：**

分野的にはどのようなものですか。

**河上係長 ：**

教育福祉振興会、文化財団、学校給食会といった団体や、支所エリアでもふるさと鹿野といったような団体があります。

（ホームページ画面を見せて）

市では２２の団体を外郭団体と位置付けておりますが、１から１９までは出資割合が２５％を超えていますので議会への経営状況報告などが必要なもの。出資割合は０ですが、収入の多くが市からの補助金等であること等から、下の３団体を含めて２２団体となります。

**清水委員 ：**

この社会福祉法人 鳥取福祉会というのは、施設などをしておられるところですか。

**河上係長 ：**

そうですね。保育園とか。

**清水委員 ：**

そこにも補助金を出しておられるのですか。福祉会は完全に民間企業みたいに思っておりましたが。

**河上係長 ：**

補助金自体は、方針を立て、それに基づいて整理合理化の見直しといったことはしてきております。補助金自体が今もずっと継続して出ているかといったことは確認いたしますが。

**清水委員 ：**

補助金がいくら出ているかは知らないけれど、独立した法人であるなら、なんだかおかしいような気がします。やっていることは民間の施設と一緒ですよね。

**河上係長 ：**

その施設に対する補助金とまた別の分野の補助金など、補助金にもいろいろな種類がありますので。

**山下恭史委員長 ：**

ずっとこのやり取りをしていると、たぶんこれだけで終わってしまうので、別途その問題を取り上げようということであれば、他の委員さんと相談しながら改めて取り上げてもいいと思いますので、今の段階ではそのような問題意識を持っておられるということにさせてください。

それで、私が補足するというわけではありませんが、純民間の団体に市から委託金とか補助金といったものが出てないかっていうと必ずしもそうではなくて、事業としては同じような分野をされているところに、多い少ないは別にして出ているものはあると思います。外郭団体だから出て、純民間だから出ないという認識はちょっと違うかもしれません。

**清水委員 ：**

お金が豊かであれば別に補助金は出してもいいけれど、一般市民は、下水道料金が上がったりとかしています。役所としてはその辺の抑えるところは抑えていくべきと思いますが。

**山下恭史委員長 ：**

それはわかります。それでしたら委員のみなさんがよければ、また検討の機会を設けるということにしましょう。

それでは引き続き進めていきますが、先ほどの進捗状況報告については、その他特にご意見なかったようなので、ここで一旦打ち切りにさせていただきます。

次に質問要望の件について事務局から説明がありましたけれども、特に清水委員からのものだけでしたので、まず清水委員からもっと追加の質問があればというのと、他の委員さんで追加の質問があればお願いしたいと思います。まず清水委員の事前質問に対

する回答についていかがですか。

特になければ、議事（２）に移りたいと思います。

議事（２）の、第６次行財政改革大綱に基づく実施計画についての評価ということですが、事務局としては、どのくらいの時間を想定していますか。

**岩田主任 ：**

委員の皆様には事前にお配りして見ていただいたということもありますので、特になければすんなり終わってしまうかなと思っておりますが、追加で質問があればそれなりに時間をかけていただいて。

**山下恭史委員長 ：**

では、事前にいただいた４つの計画について評価をしてから、時間があれば他のものに入っていくという段取りでよろしいですか。

**岩田主任 ：**

はい、お願いします。

**山下恭史委員長 ：**

そうしますと事前に事務局から配布された、ID の 28、37、38、75 についての説明を事務局の方から受けたいと思いますのでよろしくお願いします。

これらについての議論が終わった段階でまだ不十分なところがあれば、それは次回以降に持ち越しということになると思います。またこの４つ以外についても、今日個々の評価シートもつけていただいておりますので、ご質問等があればお受けしたいと思います。

進行の確認ですが、今日の２回目、さらに３回目ではとりあえずは皆さんの関心の高いところ、かつ市の重要施策にも一致するこの４つの計画を取り上げるということで皆さんと合意しております。それから、来年になりますけれども４回目あたりに担当課にも参加していただいて、再度確認であったりとか意見交換であったりとかそういったことを行います。そして、5 回目には行財政改革課の方からも要望がありました、新しいアイデアを委員会から出して、新しい施策まで踏み込めたらという風にやっていきたいと思います。

では少し前置きが長くなりましたが、行財政改革課から先ほど申し上げた４つの計画について説明をお願いしたいと思います。

**岩田主任 ：**

はい、まず ID の 28 番ですね。

～以下、ID28、ID37、ID38、ID75 について説明～

といったようなところが、概要の説明です。

**山下恭史委員長 ：**

事務局から説明がありましたが、質問等ありますか。

**清水委員 ：**

ID28 番の国際観光客サポートセンターについて、ここにはパンフレット等置いてある

と思いますが、観光地を映像等で紹介しているのでしょうか。

**岩田主任 ：**

私もセンターの中に入ったことがないので、詳しくは分かりませんが…。

**清水委員 ：**

やはり動くものはすごく分かりやすいので、砂丘とかそんな場所を外国の方がパッと見ると、ちょっと行ってみたいとか、そういうものに駆り立てていくんじゃないかなという風には思いますけど。

**山下恭史委員長 ：**

はい。ほかにご質問ご意見等ありますか。

**山下博樹副委員長 ：**

このシートの上から３段目の細施策名というところに「広域観光の推進と外国人観光客の誘客」という風に書いてありますが、中を見ると外国人観光客のことだけが書いてあります。「広域観光の推進」というところは、これは外国人観光客だけを相手にしているのか、それとも日本人も含めて考えているということなのか。であるとすればこの後半の下のところは外国人相手のことしか書いてないのはちょっと十分ではないのかなと思いました。というのも、JTB の前身である日本交通公社という、今は研究機関になっているらしいですがそこの人の話を聞く機会がありまして、今日本の国全体で外国人観光客が来て落とすお金というのは１割程度でしかなく、日本人が国内旅行として使うお金の方が６割と、かなりの割合を占めているということです。そういうことを考えると、日本に来る外国人の、しかも鳥取まで来てくれる人というのは本当に小さなパイということになるので、そこのところに血道を上げるというのが本当に雇用の創出とか税収の増加というのにつながるのかなと疑問に感じたところです。

**山下恭史委員長 ：**

ありがとうございます。たぶん意見交換していると時間が無くなりますし、これは次回ということで、一応委員さんから「どうかという投げかけがあった」とまとめていただいて、次回以降に回答ということにさせていただきます。

**山下博樹副委員長 ：**

ええ。お任せします。

**山下恭史委員長 ：**

たぶん今の段階で行財政改革課と意見のやり取りをしているとそれで終わってしまいますので。他に委員さんはありますか。

**内田委員 ：**

今の山下副委員長と同じ意見を持っていまして、財源の確保という視点で見た時に、指標として増加した人数等はあるのですが、実際にいくら儲かったかがわからないです。それから、外国人観光客が何を魅力として感じて、何を目的に鳥取に来られているか。そういうところを分析して、そこにスポットを当てていかないと、いろいろな取り組みをしても効果的な観光客の獲得につながらないのではと思います。そういったあたりの

調査がもう少し足りていないのではと思います。

**山下恭史委員長 ：**

そのほかID28についてご意見ご質問、ありませんか。

**玉木委員 ：**

先ほどのファムツアーの関係の説明の中で、旅行代理店などのほかにパワーブロガー系というのがありましたが、その効果が本当に見えないというか、分からないのではないかなと思います。そのパワーブロガーが来て観光して、フェイスブックなどで発信されると思うのですが、それを見たから来たっていうのは、たぶん統計が取れないと思いますし、おそらく効果が分からないのではないかという気はします。

**岩田主任 ：**

情報発信をしてどのくらいそれが影響したかということを知るのはなかなか難しいと思います。その効果測定をする手段が見つかればとは思いますが。

**玉木委員 ：**

効果の測定はちょっと難しい気がしますね。

**山下恭史委員長 ：**

その他ありませんか。ないようでしたら、もう少し時間があるので私の方から。

先ほど、山下副委員長ですとか内田委員さんが言われましたが、私もそう思っています。先ほどサポートセンターの方の話が出ていましたけども、鳥取駅の観光案内所。これは観光コンベンション協会が運営、いわゆる指定管理として受託しているのですが、平成27年度の案内の受付件数を見ると、年間で7万7千人なんです。平成26年度から比べてみると12%アップしています。そのうち外国人はどのくらいかと言いますと1万6千人ぐらいになります。これも対前年で16%ぐらいアップしております。ここのIDに書いてあるのはサポートセンターなので、サポートセンターの数字と比べてみていただいたら分かりますけども、サポートセンターだと外国人は上半期で3千人ということですが、先ほど申し上げたように案内所は年間1万6千人を受け付けているので、少なくともサポートセンターの5倍以上の外国人が、案内所に来られていますから、外国人観光客の動向を把握しようと思ったらここも必要だと思います。それから外国人の4倍の日本人観光客が実はそこの案内所を訪れているということがあるので、施策としてはここと一緒に、日本人観光客というものもターゲットにした取り組みが必要だと思います。これは副委員長さんと内田委員さんと同じ考え方です。

それから外国人観光客が鳥取のどこにどれだけ行っているかは「分かりません。統計が取りにくいです。」という話が出ていましたが、これは外国人向けタクシーを委託している運転手に、どこに行きましたかと報告を出させることで分かると思いますが。

**岩田主任 ：**

外国人タクシーの利用者の行先は把握できるかなとは思いますが、担当課とのはなしで挙がったのは、そもそも鳥取砂丘や鳥取城跡という観光スポットにどれだけの外国人観光客が訪れているかということが把握しにくいということです。

**山下恭史委員長 ：**

外国人タクシーを通さないお客さんということですね。確かにそれは各施設に行かないと分かりませんけれども、少なくとも外国人タクシーを利用しているというのは、データがそこに集まるわけですから、データの取り方をもう少し工夫したら取れるんじゃないですかということと、もう一つ、日本人観光客のデータはもっと取りやすいのでもう少しそんな努力がしてほしいということ。それと DMO との関係で、鳥取市の施策をどういう風にされているのかということと鳥取県との関係。鳥取県も当然ながら東部地域に観光力入れていますのでどういう風にしているのかっていうのをお願いしたいと思います。

他にありませんか。

**清水委員 ：**

私も海外に結構行きますけど、現地に来てここに行こうかあそこに行こうかという相談をするっていうのはなかなか考えられない。これはちょっと遅れているのではないかと思います。今は個人に情報発信できるわけですから、そういうものをもう少し利用して魅力あるものを流していかないと。ツアーに流していくのではなく、個人に流していくと。そして行ってみようかという気持ちを駆り立てるようなことが一番必要じゃないかなと思います。

**山下恭史委員長 ：**

今は回答いりませんので、次の時で結構なので、そうしてください。次に行きます。

**山下博樹副委員長 ：**

もう一つだけ次回までに調べておいていただきたいのですが、外国人観光客サポートセンターの「相談」って書いてありますが、何を相談しているのかっていうことをお願いします。

**山下恭史委員長 ：**

あとで別途、今日思い浮かばなかった、あるいはそれ以外の質問というのをとる機会を設けますので、次に進ませてください。

では､ID37 について皆さんのご意見あるいはご質問等あればお願いしたいと思います。

**山下博樹副委員長 ：**

ちょっと質問ですが、シートの上の取り組み内容のところに「新規販路開拓」とか「輸出ルートの確保」って書いてありけど、これは行政がするのですか。

**岩田主任 ：**

販路開拓ということに関しましては、関西での商談会ですとか DM などでこういった鳥取の産品がありますよと紹介をして、そこで、それをお店で使いたいといった相談がきたときにつなげてあげるというような取り組みをしているというところです。

**山下博樹副委員長 ：**

それを行政がするのですか。

**岩田主任 ：**

はい。生産流通振興室という担当課がしております。

**山下博樹副委員長 ：**

そういうことを行政がやっていること自体、少し遅れているような気がするのですが。

**山下恭史委員長 ：**

はい。と、いう意見がありました。ということだけ控えておいてもらって、そのほかありますか。

**福山委員 ：**

私はＵターンして１０年。とにかく関西と結ばれるべきということをずっと主張しながら、それに特化して活動してきました。毎月、米や今の時期になれば梨を持って、トラックで関西に運んでいます。県から補助金をいただきましたので。その中で感じるのは、先ほど説明であったように、交通費やガソリン代の必要経費と１週間売り歩いた売上金額いうのがほとんど儲けにならないということです。農産物が豊富な秋に上手くいってトントンという感じ。それで今考えているのが、いかに関西から連れてきて、グリーンツーリズムなどで観光してもらいながら売ってしまうか。そこで持って帰るのではなく、予約を取ってパックにして送ってあげるといったやり方を、日本財団の支援を受けて用瀬で取り組んでいます。加工場を立ち上げて味噌を作ったりして、かなり効果が出ようとしているのですが、こういったことにもう少し特化した補助金というか、そういうものがあればもっと効果が出る可能性があると思います。

私は関西に長年住んでいましたから分かるのですが、関西はピラミッドのように勝ち組と負け組というのがはっきりあって、そんなに豊かじゃない、生活できない人が底辺にはたくさんおられます。ただ、鳥取というところは、値段的に関西からは来やすい。用瀬でしたら６，６００円で往復できますから、少ないお金でこんな鳥取の素晴らしい自然が味わえて、うまいものが食べることができて、安く物が買えるっていうことを、関西にもっと知らしめるっていうのを、市を挙げてやるっていう戦略に出ればいいのではないかと思います。宿泊場所も城崎や三朝や皆生のような大きいところは東部にはないけど、民泊というものが今はあるわけですから。市もそういうことに協力っていうか目を当ててもらったら、財源が生まれてくると思います。

**山下恭史委員長 ：**

他にありませんか。

**清水委員 ：**

今は販路拡大ばかりに目が向いていますが、やはり地域経済の活性化っていうところに目的も持って行ってもらいたいっていうのがあります。鳥取県内の人も毎日食べるわけですから、外へ向けた動きと同時にそこも充実するようなことをしてほしいと思います。鳥取で県内のものを使って６次産業が充実していく中で、そういうものを消費していく、それが毎日毎日のことだから地域経済が活性化してくるので、それも同時に進めてほしい。それから、この中間評価の見直しの項に、私も、これもっともだなというの

が書いてありますが、今本当に農家が高齢化して田畑が休耕田として残っていますが、それを企業に売り込んでいただいて、特にスーパーとかそういうところにでも売り込んでいただいて、活用できるような方法も良いのではないかと思います。

**山下恭史委員長 ：**

その他ありますか。

**内田委員 ：**

一ついいですか。最初にこの説明を聞いた時に、農協さんがやっていることと何が違うのかなって思ったので、その辺の違いとかを次の機会に教えてもらえたらと思います。

**山下恭史委員長 ：**

本日冒頭で説明の合った、清水委員からの事前の質問で「大手企業等のマッチング」という成果指標が分かりにくいので委員会で協議したいということもありました。このID37の成果指標で大手企業のマッチング年１件ずつ、ここを担当課の方あるいは行財政改革課は明確な指標と考えているようですが、委員会での意見を伺いたいということなので、ここについては委員会として少し議論したいと思います。どなたかありますか。

**山下博樹副委員長 ：**

この「大手企業とのマッチング」っていうのは、その“大手企業”というのがよく分からないのですが、例えば、上の方には「高値販売の輸出ルート」って書いてありますけれども、要は鳥取の商品を高く評価してくれるようなルートが開拓できるのであればいいと思いますが、大手企業っていうものが書いてあると、なんとなくこう買いたたかれるような、数をそろえるために、たくさん買っているのだから安く売れというようなイメージで、上下関係みたいな形で疲弊させられるようなものではあまり意味がないと思います。中身がどういう契約でのマッチングになるのかが問題であって、あんまり件数だけで判断するっていうのはどうなのか。契約の中身をここで数値目標にするのは難しいのですが。

**山下恭史委員長 ：**

大手企業の指標はどうかっていうことに対して、今の指標は関西圏の飲食店とのマッチング。ですから数量とかは別として、ということ。それと誘致企業とのマッチングをするということで組まれています。私個人的には飲食店とのマッチングって今までもやってきたし比較的簡単にできると思うので、１件という目標でいいのかどうか。もともとは前の委員会の中で１件にしましょうという話があったものですが、再度検討をしないといけないかなと思います。それともう一つ山下副委員長からあったように、「高値販売の輸出ルートの確保」というのが、本当に行政がするのかっていうところも議論をしていきたいと思います。

それと質問ですが、県外企業の農業参入であるとか、契約栽培っていうのが難しいという話がありましたがそうだと思います。ずっと組織としてやってきて。一つ聞きたいのは、日本再興戦略の中でも示された、農地中間整理機構というのが鳥取県にも作ってあると思いますが、そこで仲介できたっていう件数実績が分かればいいなという風に思

っております。それから企業参入や契約栽培への鳥取市の農業委員会の方針というか考え方がきけたらなと思います。

その他ありますか。なければ次に進みます。

では、ID38について、ご質問・ご意見あるいは次の時にこんな資料をということもあれば併せてお願いしたいと思います。

**山下博樹副委員長 ：**

先ほどの６次化情報バンクというのも行政がやるという話でしたけども、感想として、こういうものも、マッチングや情報収集など、民間の方が上手にしそうな気がするのですが。

**清水委員 ：**

しかし、日本の農業というのは小さい農業から成り立ってきているわけで、高齢化が進んできているという事もありますし、そこは行政がリーダーシップをとってやるべき管轄だと思いますが。東国原知事の時に宮崎に行きましたけれど、やはり行政の力って大きいなと感じました。ジュースなんかに宮崎知事の顔が出ていて、すごく売れたんですよ。だからちょっとした工夫でそういうものが潤ってくるということがあるので、私は行政のリーダーシップがこれからは大事ではないかなという風には思っています。

**山下博樹副委員長 ：**

私が言ったのは、行政が口を出すなということではなく、行政が自らやらなくても色々なところに働きかけたり、補助金を付けたり、色々な支援をしながらでも他でやってもらえばということ。

**岩田主任 ：**

先ほど内田委員が言われた、農協がやっていることとどう違うんでしょうかという感覚がもしかしたら今の話は近いのかなと。もしかしたら市役所がそのままやらなくても農協にお願いしたらしてもらえるかもしれないし、先ほどの一個前の話題になると、農地中間整理機構というところがあるのでそういうところを活用してはどうかというようなご意見がありましたし。その辺りは事務局的には、まだ少し勉強が足りないところだったので、役割として整理する必要があるかなと思いますね。

**清水委員 ：**

でも、補助金は永久に出すわけじゃないですから、やっぱりそこは官が考えてやってかないと税金ですからね。

**吉永委員 ：**

６次化情報バンクっていうものを作っていく話ですが、大阪とかである農産物のエキスポとか出てみると、実際に他県では６次産業化のプランナーみたいな人がいて、補助金使ったら呼べるのではというようなことを聞く事があるが、まだ鳥取県にそのプランナーがあまりいない。６次化情報バンクで情報だけ集めても実際作るとなったときに、製品化までを支援してくれるような人、アドバイスをくれる人というのを育成してもらえたらありがたいなと思います。

**山下恭史委員長 ：**

その他ありますか。なければとりあえず進みます。

では主要な４項目のうちの最後。ID75 についてどうでしょうか。

**山下博樹副委員長 ：**

質問ですけど、砂像とか砂の美術館に力を入れてやっておられて、入館者数というのは数字で挙がっているのですが、要はこれだけではない、この砂像関係の事業が、どういう経済効果を全般的にもたらしているのか、これに力を入れることによってどのようにこれまでとこう、なにが変わってきたのかというような、もう少し全体像がみえるような情報を教えていただけたらと思います。

**清水委員 ：**

一番気になるのは収支決算です。砂像は職人に頼んでいるから膨大なお金がかかっているのではないかと感じるので、支出と収入が分かれば教えていただきたい。それから、今入館者数が下がってきているのではないかと思うのですが、それもちょっと気になります。ただ砂像を見せるだけじゃなくて、もう少しその中から活用できるような工夫も必要かなという風に思います。見るだけではさっと帰ってしまうのでもったいないなと。

**山下恭史委員長 ：**

その他ありますか。

**岩田主任 ：**

先ほどの山下副委員長のお話しですが、例えば、鳥取と言ったら砂像があるかなっていうことが、観光客に伝わることで、砂像もあるし砂丘もあるし温泉もあるし蟹もあるっていうことで、ではそちらにも行ってみようかということにつながるかどうかみたいな、そういう広がりのことでしょうか。

**山下博樹副委員長 ：**

まあそういうのも含めて、こういうことに結構力を入れ始めていると思うのですが、そういう、ダイレクトでは分かりにくいかもしれませんけれども、観光客が増えているとか砂丘方面に来る人が増えたとか、何かそういう風な変化というか、情報があれば教えていただけますか。

**山下恭史委員長 ：**

それはまた資料として提出いただければありがたいなと思います。

時間の関係で少しだけ話しますけど、私は、砂の美術館の５０万人というのは実は大きい数字だという風に思っています。山陰地区でも一つのエリアとしては非常に大きい数字で、データは古い平成 26 年度分ですが、例えば、山陰地区でいえば松江城が３７万。島根の県立美術館では１８万～１９万ぐらい。一番多いのが八重垣神社で４２万。というようなことを考え合わせればかなりの人数が実は来ていただいていると思います。新しい取り組みを何もしていないかもしれないという話については、例えば、今度「ワインの夕べ」がありますし、少し前はコンサートも行っている。新しい事業はその中を使ってされていますし、そこで経済効果という面で行くと、売店の売り上げも結構上が

ってきています。ただ、鳥取の商店街に来てもらうとか、あるいは観光客に泊まってもらうなど、実はまだまだ不足しているのだろうと思います。砂の美術館は指定管理ということもあるので、やはりそこの力の入れ方っていうのは市と協議しながら、来館者数の増加とともに、ここのエリアの経済効果をどうして生んでいくかということが多分必要なのだろうと思います。そんな中で砂像の国内選手権大会の決定とかって書いてありますので、新しい動きだなと思って期待をしているのですが、もし次の段階でそういっ取り組みの概要が分かれば、それについて意見交換できるのではないかと思っておりますので是非そのあたりも資料をお願いしたいと思います。それと、「今後も指定管理と連携を取りながら」と書いてあるのですが、多分、来年度新しい指定管理者を募集されると思うのですが、そのあたりの考え方をお聞かせいただけたらと思います。今現在とすれば多分トータルの事業費ではトントン以上のものが出ているのだろうと思っていますが、それが今後も続くかというとまた別の問題だろうなと。担当課の方がそのあたりをどういう風に考えておられるのか、そのあたりの話も指定管理のことも含めてお聞かせいただければという風に思います。

**山下恭史委員長 ：**

では ID75 に対して他にご質問等があればお願いしたいと思います。なければ全体を通して、今日配られた資料も含めて関心のおありのところでもいいですし、中間評価についてでも結構ですので、もしあればお願いしたいと思います。

**清水委員 ：**

添付資料の 6 番のところのね、ID11 の行財政改革課っていうところなんですが、外部委託推進方針の見直し作業が遅れているということで、C の評価があるんですよね。これちょっと具体的にどの程度の遅れがあるか教えてください。

**岩田主任 ：**

今日お配りした資料の ID11 というのがその評価シートになります。この第 2 次外部委託等推進方針の策定については、本当でしたら 4 月以降にたたき台を作って各課と調整してという風に考えていたのですが、先ほど申し上げましたように、新たに窓口業務の委託ということで業務調査というのをコンサルにお願いしているということがありましたので、調査結果が出る今年度末には、最終取りまとめをしたいという風にスケジュールを組みなおしましたので、上半期の段階でたたき台が出来ていない状況にあります。

**清水委員 ：**

ありがとうございました。

**山下恭史委員長 ：**

それでは他になければ、今日の議題としてはこれで終了してもよろしいか。

**河上係長 ：**

今日の会議の間に出せなかったご質問ご意見等があれば、メール等でいただければと思います。

**4. その他**

**山下恭史委員長 ：**

では、できるだけ早いうちに質問項目のフォームを各委員に送っていただいて、委員の皆さんはお仕事の合間になるかもしれませが、早いうちに質問等あるいは追加の資料について言っていただき、また、次の会議までに本日の資料等をある程度読み込んでもらってということにしたいと思います。

**5. 閉会**

**山下恭史委員長 ：**

次回の委員会の日程については、行財政改革課の方から日程調整の案内が行くと思いますので、それを待って日取りを決めたいと思いまます。ただ、仮に委員会の日程が早まったときに、担当課の方も満足な回答ができないあるいは資料が用意できないということになれば、せっかくの委員会をしても少し物足りない委員会になってしまう可能性がありますので、ぜひ委員会の審議を十分なものにするために委員の皆さんにはお手数ですけども案内を待たずに評価シートを読んでいただき、質問項目等あるいはご意見でも結構なので早めにご検討いただければと思いますので何卒よろしくお願いいたします。では、これで第 2 回の委員会を終わりたいと思います。

---